

JSABS 日本ビジネス実務学会

会報 No.70

発行日/2019年3月31日発行

編集/日本ビジネス実務学会(広報委員会)

事務局/〒004-8602 札幌市清田区清田4条1丁目4-1 札幌国際大学内

URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

《ブロック研究会活動報告》



《会長あいさつ》

学会に求められることの変化を踏まえ、次の世代へ

会長 椿 明美(札幌国際大学短期大学部)

学会草創期とは異なり、現在は近接の学会が林立する状況にあり、より学会の独自性や目的の明確さが求められるようになりました。そのような中、新しい二つの動きをご紹介します。

昨年から見られるようになったことですが、札幌において複数の学会が共催で講演会等を開催し活況を呼んでいます。先日、某学会主催のシンポジウムに北海道ブロックも協力開催し、会場溢れるほどの参加者で賑わいました。双方向の生き生きとしたやり取りがなされ大変参考になりました。

近接学会であるため研究課題が重なることから、学会間のコラボレーションは今後一つのあり方として有効であると感じました。また、他学会との交流とともに、学会の目的の違いを認識することで、本学会の独自性も明確になってきます。

もう一つは、学術団体から学会に有識者や表彰者の推薦を依頼されるようになったことです。学会として独自の分野を示すことにも繋がり、学会そのものを問われているようにも思われます。推薦に対しては、現段階の学会員データでは選考が難しく、今後は会員情報把握の仕方を検討しなければなりません。

本学会は領域の拡大を図って参りましたが、このような動きを見てビジネス実務の定義再考を含め、研究課題の集中により本学会のカラーを明確にすべきところに来

ているのではないかと考えております。そこで、前回も触れましたが、二つのワーキンググループの調査結果から、若手研究者や実務家教員からは、研究・教育上のセミナー開催だけではなく、授業公開や相互教授、教育上の相談など、双方向的な学びの場の提供を望む声もありました。教育手法の蓄積から研究者サポートも学会の役割として今後検討の余地があることがわかりました。

「実践の知」を科学する研究とともに、実務家教員養成も本学会の役割として重要であることを押さえておきたいところです。

さて、私はこの6月の総会をもって任期満了で会長職を退任いたします。役員を始め会員の皆さまには、学会運営に多大なるご協力をいただきありがとうございました。この4年間は学会の基盤整備と次への準備でした。飛躍する次の体制への期待を抱いて、4年間を閉じることとします。

4年間の取組

- ① 二つのワーキンググループによる調査・研究
- ② 論集のPDF化(秘書学論集第1号からすべての論集)
- ③ メーリングリスト整備により、メールによる連絡システム完了
- ④ 個人データ更新システムにより年1回個人データの確認実施

《Contents》

会長あいさつ	1
委員会活動報告	2
ブロック研究会活動報告	3-4
北海道、関東・東北ブロック	3
中部、近畿ブロック	4
中国・四国、九州・沖縄ブロック	5
ブロック研究会研究発表一覧	6
ブロック研究会運営委員一覧	7
事務局からのお知らせ、新入会員紹介、第38回全国大会案内	8

委員会活動報告

総務企画委員会

委員長 大島 武（東京工芸大学）

学会運営全般に関わる3点について検討を重ねました。第一に、年会費の改定です。1998年から正会員年会費が8000円で据え置かれてきましたが、財政健全化、ならびに研究推進施策の一層の充実のため改定（値上げ）が必要であること、2018年6月の総会でご了承頂きました。これを受け、具体的な改定案を作成いたしました。第二に、研究助成の開始です。本学会における研究活動がより拡大・深化することをめざし、共同研究、個人研究を助成する制度を立案いたしました。第三に、学会運営をより円滑に進めるため、事務局次長の設置を可能にするルール変更を検討いたしました。いずれも次回の総会にてお諮りいたします。

研究推進委員会

委員長 米本 倉基（藤田医科大学）

第37回2018年度全国大会(中国・四国ブロック担当)が6月9日・10日の両日、徳島市・徳島文理大で開催されました。本年度の大会統一テーマ「地域・産業界と協働するビジネス実務教育」の下、初日の午前中に特定非営利活動法人グリーンバレー理事長・大南信也氏による徳島県名西郡神山町の地域おこしの事例に関する講演会、午後は4会場に別れ、16演題の口頭発表と合わせ9件のポスター発表で大いに盛り上がりました。続く2日目の午前には、本学会副会長の藤田保健衛生大学（現：藤田医科大学）米本による教育研究サポートセッション・ビジネス実務研究力アップ講座「科研などの研究計画書作成法」が行われ、その後、高松大学の佃昌道先生と中国学園大学の佐々木公之先生のコーディネートによる統一テーマに沿ったワークショップと続き、実り多い全国大会を終えました。そして9月開催の研究推進委員会では、この全国大会参加者からのアンケート分析結果を踏まえ、次回第38回全国大会(関東・東北ブロック担当)に向けて統一テーマを「AI時代とビジネス実務教育」とし、運営方法・プログラム構成等を検討しました。さらに12月開催の委員会では、担当の関東・東北ブロックより開催場所、全国大会プログラムの提案があり第1号通信発送の準備検討を行いました。同時に、JAUCB受託研究の内容等の検討も行いました。

編集委員会

委員長 大重 康雄（鹿児島女子短期大学）

本委員会では学会誌「ビジネス実務論集（年刊）」の編集・発刊を担当しております。学会では会員による多様な研究成果をより発表しやすい環境作りに努めて参りました。2016年度に「ビジネス実務の研究目的と研究対象領域」の見直しを行うとともに2017年度は「ビジネス実務論集規程」を見直し、投稿種別に「資料」を加え3種類（論文・研究ノート・資料）とし投稿機会の拡大を図りました。

これら見直しと、各ブロック研究会での研究活動成果を受け、2018年度8月上旬締切での投稿申込件数は昨年度を7件上回る28件となりました。実際に投稿された件数も26編（対前年比+85.7%）となり大きく投稿件数が向上いたしました。投稿26編中、審査を通過したのは16編でしたが、その多くは修正を条件とする再審査となりました。通知後、取り下げもあり最終的に再審査を通過したのは12編（論文2編、研究ノート7編、資料3編）となりました。研究領域別では、教育開発7編（内訳カリキュラム検討：1編、教育方法の研究：6編）、理論・調査5編（内訳ビジネス環境とビジネス実務3編、人材育成と能力開発：2編）となっております。

また今年度から学会ホームページ上で、前身の日本秘書学会論集「秘書学論集」から昨年度発行の「ビジネス実務論集」36号まで各号表紙をPDFファイルで閲覧することが出来るようになりました。本学会での研究成果を幅広く社会に発信する場となっております。今後とも日頃の研究成果を、本論集に投稿頂きたく宜しくお願いいたします。

広報委員会

委員長 和田 佳子（札幌大谷大学）

2018年9月発行の会報No.69では、盛会だった徳島大会の詳細をお伝えしました。第70号となりました本号では、全国6ブロックの活動状況をお届けします。会報で知る他ブロックの動向をヒントに、ブロック研究会の活性化を図り、ブロック横断的な研究の取り組みに繋げる動きも見られます。また、会員メーリングリストが整いましたので、事務局発信のほかに、広報委員会からの情報発信も行っております。広報希望の案件がございましたら、広報委員会専用アドレス jsabs.prc@gmail.com までご連絡ください。今後、当委員会では、会報のウェブ化（ペーパーレス化）、ウェブサイトの活用促進を検討してまいります。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ブロック研究会活動報告

北海道ブロック

北海道ブロックの会員数は現在 25 名とブロックとしては最少数である。研究会などで集まると、字面にすると誤解を招きそうであるが、和気藹々とした雰囲気の中、それぞれが将来に向けて気持ちを新たに、鋭気を養っている会員が多いと考えている。

2017 年に続き、2018 年も「会員にとって魅力ある研究会」とはなにかを模索し続けた 1 年であった。研究会のあと、いつも茶話会を開いて情報交換を行なっているが、それぞれの現状や学生の様子などを話し合ううちに、教員からみた学生と、例えばキャリアセンター職員からみた学生達とはもっと違う面をみせているのではないかという話から、学生との関わりを教員に限定せず、他のセッションなどではどのように見ているのかを知りたいという提案が生まれた。そしてそれを勉強会で実施してみることにした。

2018 年 7 月 7 日（土）に開かれた勉強会では、「キャリアセンター事務職員からみた大学生の実態」というテーマで、札幌国際大学・大谷大学のキャリアセンターの職員にお越しいただき、キャリアセンターの組織や業務内容などの説明の後、日頃学生と接して感じて感じる、教員との違いなどを説明していただいた。今の学生は直ぐに答えを求め、ある面他人事のように聞いているなど、日ごろ気になっていた学生の気質が同じように報告された。また、自分の価値に気がつかない、自分のなかでの整理ができていないなど、キャリアセンターならではの指摘もあった。その後のフリーディスカッションでは、教員への希望として、学生達にもっと興味を持って欲しい、声かけや様々な体験などをさせてほしいとの声もいただいた。

また、2019 年 1 月 26 日（土）には、北海道ブロック研究会が開かれ、4 件の発表が行なわれた。今回の発表は、研究対象領域に縛られず自由な発想でビジネス実務研究に切り込みたいと考え、テーマについては自由とした。また完成形でなくても可能とし、より今後の研究に会員相互のアドバイスが生きるような研究発表を目指した。

発表内容は、地域フィールドワーク、カラーージュ（写真や絵や文字などを新聞・雑誌などから切り抜き、これらを画用紙などの台紙に貼って 1 つの作品にするもの）制作、RPA（Robotic Process Automation）、外国人留学生のインターンシッププログラムと多岐にわたった。改めて、多面的にビジネス実務を捉えることの重要性を共有できた研究会であったといえる。

加藤 由紀子（北海商科大学）

関東・東北ブロック

1. 2018 年度ブロック研究会の動向

リーダー、サブリーダー、運営委員の組織改編後の初年度であると同時に、次年度の全国大会（2019 年 6 月 1 日、2 日開催）を成功させるために、継続委員、新規委員が試行錯誤しながら連携を取り合った 1 年であった。

2. 第 46 回ブロック研究会

2019 年 2 月 16 日（土）10:30～16:30、大妻女子大学千代田キャンパスにて実施した。昨年度から取り上げている A I を基軸とし、全国大会との統一テーマ「A I 時代とビジネス実務教育」を掲げた。研究発表～基調講演～バズセッションに至るまで A I という切り口を通し、発表者や講演者だけでなく、研究会の参加者全員が関わる運営スタイルは、初めて参加した会員やビジター参加者にも、関東・東北ブロックの活動を身近に感じていただけたようである。また、今回から昼食、茶菓のすべてを参加者本人の持ち込みまたは外食としたこと、名札はネームホルダーのみ用意して参加者自身の名刺を使用したことなど、準備・運営面でも効率化を図った。

(1) 総会

ブロック研究会当日、34 名（会員 23 名、ビジター 11 名）の参加者を得て開会し、新規運営委員の紹介、年間活動報告、会計収支報告・予算が承認された。2019 年度の研究助成も応募 1 件について選考状況の説明があり、承認を得た。

(2) 研究発表・基調講演

午前中に研究発表と実践事例報告各 1 件、午後から三菱総合研究所主任研究員の小原太氏による「A I 採用最前線」をテーマに基調講演が行われた。エントリーシート「優先度、人物像、辞退可能性」などを診断するツールとサービスの現状を伺うことができた。60 分の講演後の質疑応答は例年より長く 30 分間を確保したが、質問が途絶えることがなく、参加者の関心の高さが窺えた。

(3) バズセッション

講演者が 5 つのグループ席を回りながら参加、発言に加わっていただきながら「ビジネス実務教育と人材育成」はいかにあるべきかについて意見交換を行い、参加者銘々が 1 日の研究会を振り返る有意義な場となった。講演者の小原氏には研究会終了後の懇親会にも最後までご参加いただくことができ（計 19 名）、打ち解けた中、盛会の裡に研究会を終了することができた。

3. ブロック会報

2019 年 3 月末を目途に会報を学会 web サイトに掲載する予定である。

宮田 篤（青森中央短期大学）



中部ブロック

(1) ブロック研究会の開催

2019年2月16日(土)・17日(日)の2日間、新大阪丸ビル別館において、今年度のブロック研究会が開催された。今回は、近畿ブロック研究会との合同研究会という事で、全体として60名近い参加があった。中部ブロック研究会だけでも20名超の会員等、JAUCB受託研究報告においては、学生8名の参加があり、大変賑わいのある研究会となった。

初日の個人研究発表では、3件中1件、2日目には3件中2件が中部ブロック所属会員によるものであり、全体で近畿ブロック助成研究報告を含め8件の発表では、活発な質疑応答が交わされた。

(2) 総会

2019年2月17日(日)、合同研究会の最初に総会が開催された。複数回実施された運営委員会報告、平成29年度の会計報告、次年度役員体制、次年度活動方針等が審議され、満場一致で承認された。要旨集のPDFファイル配信版のみにすることなどによってコスト削減されたこと、合同開催についても好評であり、今後も新たな取り組みにチャレンジしていくことが確認された。

(3) JAUCB受託研究発表—学生によるプロジェクト発表

2日目に開催された「JAUCB受託研究発表」では、学生によるプロジェクト発表が行われた。今回は「学生プレゼンテーションコンテスト」を開催しなかったものの、活発な学生の発表に対し、会員も大いに刺激を受けることができた。金城大学短期大学部からは、ビジネス実務学科2年古村咲希さん、山下将都さん、堂ヶ平夏奈さん、藤本未来さん、越村未来さんの5名、そして愛知東邦大学からは経営学部地域ビジネス学科3年栗飯原寛太さん、葛岡亮哉さん、藤原皓汰さんの3名からの発表があった。

(4) 中部ブロック会報第33号の発行

2019年3月には、ブロック研究会の発表内容等を盛り込んだ「中部ブロック会報第33号」を発行し会員に配布した。

手嶋 慎介(愛知東邦大学)



近畿ブロック

■2018年度近畿ブロック研究会活動報告

第55回近畿ブロック研究会が2019年2月16日(土)および17日(日)の2日間にわたって、新大阪丸ビル別館にて開催され、参加者は31人でした。今回の研究会は、初の試みとして中部ブロックとの共催で行われました。中部ブロックと合わせた参加人数は50人以上となり、全国大会の半分程度の規模となりました。1日目は、近畿ブロック総会、近畿ブロック助成研究最終・中間報告、研究発表という次第で進められました。2日目は、中部ブロック総会、研究発表、JAUCB受託研究成果報告という次第で進められました。なお、1日目の終了後には両ブロック合同での懇親会が開催され(37人が参加)、ブロックの垣根を超えた交流がはかられました。

(1) 総会

ブロックリーダーより、2017年度活動報告および収支報告があり、さらに2018年度の事業進捗状況および決算予測、2019年度の事業計画と予算案が示されました。以上について、参加の全会員の承認を得ました。また、2019年度の近畿ブロック研究助成の募集および、新リーダーを中心とする2019年度以降の新しい実行委員の体制についても紹介されました。

(2) 助成研究最終・中間報告

2017年度よりの助成研究の最終報告が1件、2018年度より始めた中間報告が1件ありました。参加者からの質疑応答も行われました。

(3) 研究発表

1日目は中部から1件、近畿から2件、2日目は中部から2件、近畿から1件、2日間で計6件の発表が行われ、質疑応答も活発に行われました。

(4) JAUCB受託研究成果報告

2017年度より2ヵ年度にわたって助成をいただいた研究の成果について、報告が行われました。この助成研究は中部ブロックと近畿ブロックの合同で進められており、中部からは5件、近畿からは3件、合わせて8件の報告が行われました。このうち3件については、実際に企業などとの連携事業を体験した学生自身によるプレゼンテーションも行われました。プロジェクト全体のテーマは、「企業従業員と学生コラボチームによる業務課題解決プロジェクト」であり、中部および近畿それぞれの地域内での企業などとの連携事業のプロセスと結果および課題などが報告されました。なお、この成果については今後さらに整理されて報告書にまとめられ、次の全国大会においても報告が行われる予定です。

坂本 理郎(大手前大学)



中国・四国ブロック

九州・沖縄ブロック

1. ブロック研究会・総会

去る2018年8月25日(土)、26日(日)の2日間、高松大学において、第35回中国四国ブロック研究会を開催した。今回も例年とほぼ同数の4組による研究発表があった。テーマとしては学生による地域貢献(介護施設での活動や観光活性化策)、地域ボランティア(ボランティア通訳)、キャリア教育などに関わるものが扱われている。

ブロックリーダー・佃昌道氏の提言によるワークショップとして、高大連結とビジネス実務教育の2点に絞って会員同士の討議が行われた。今回、大学教員ばかりでなく、商業高等学校教員の名和晋也氏が参加されていたため、「高等学校学習指導要領の改訂のポイント」などについても細かい解説がなされた。また、中央教育審議会大学分科会将来構想部会での「中間まとめ」についても解説があった。これは2040年の社会の姿を念頭に置いたの考察であり、高等学校から社会人にかけては教育におけるSTEAM(Science, Technology, Engineering, Art, and Mathematics)の重要性などが盛り込まれている。

総会では前年度事業報告と会計報告、新年度事業計画と予算案が示され、承認された。

2. 学生プレゼンテーション大会

今回で13回を迎える学生プレゼンテーション大会は6グループもの参加があり、発表内容やプレゼンテクニックも非常にレベルの高いものであった。岡山県倉敷市の真備町にある自宅が、豪雨で被災した学生による発表もあり、全編英語によるプレゼンも2件あった。タイトルと発表者は次の通り：①「音楽学科でのチャレンジ」川北菜未さん(徳島文理大学音楽学部2年)；②「外国語を学んで」新居綺華さん・篠原藍さん(徳島文理大学短期大学部言語コミュニケーション学科2年)；③「真備町の僕が、平成30年7月豪雨で経験したこと」武政輝之さん(中国学園大学国際教養学部3年)；④「祖父母の住む飛鳥で私たちができる活性化」山下真弥さん(中国学園大学国際教養学部3年)；⑤「笑顔のWAが地域を救う」森千尋さん(高松短期大学秘書科2年)；⑥「マルシェ実習を通じて学んだこと」香川桃子さん・川井梨子さん(高松短期大学秘書科2年)

3. 運営委員会

去る2018年6月に徳島文理大学で開催された第37回全国大会でスムーズに協力体制が形成できたことを踏まえ、各大学で会員数を増やす努力を続けてゆく旨が確認された。

堀口 誠信(徳島文理大学短期大学部)

第61回九州・沖縄ブロック研究会は2019年2月16日(土)13時より、福岡工業大学短期大学部にて開催された。他ブロックの会員3名を含めて合計16名の参加となった。なお、研究発表者は4名だった(詳細は後述)。

基調講演は「SDGsと大学での学びについて」。SDGsとはSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称で、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の具体的な行動計画のこと。我々はビジネス実務の現場をしっかりとみずえ、「ビジネス実務能力の開発」をめぐって、常に新しい研究課題を探求し続けることが責務。ゆえに、近年企業にとって必須の社会貢献指標「SDGs」を理解し、持続可能な社会を担う未来型人材として学生を育成するために、どのように教育を行うべきか常に考える必要があることに異論は無いだろう。そこで、SDGsの普及や教育設計のプロフェッショナルである、北九州市立大学基盤教育センター教授で、地域創生学群学群長地域創生学群学群長を務める眞鍋和博氏にご講演いただいた。

そして、本講演を受けてのワークショップが開催された。ファシリテーターは北九州市立大学地域共生教育センター特任講師の村江史年氏(本学会会員)。SDGs教育のトップランナーの一つである金沢工業大学のSDGs推進センターが開発したSDGsカードゲーム『THE SDGs Action cardgame「X(クロス)」』を用いて、参加者全員がゲームに勤しみながらSDGs教育を体感した(ゲームフィクション)。

結果、参加者全員の満足度を体感できる、素晴らしい講演&ワークショップとなった。その後の懇親会にも眞鍋先生にご参加いただき、SDGsについての理解をさらに深める機会となった。引き続き本ブロックでは、新規会員獲得を視野に、学会員が望む研究会を企画・実施していきたい。

見館 好隆(北九州市立大学)



ブロック研究会研究発表一覧

※発表者氏名（所属）「タイトル」／研究領域

■北海道ブロック

1. 和田 早代（札幌国際大学）「受託研究における地域フィールドワークの実践」－地方創生に挑戦して3年－／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究
2. 南 聡子（国際カラーデザイン協会）「専門学校生のコラージュ制作にみる就職の意識と就職状況」／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究
3. 加藤 由紀子（北海商科大学）「近年のRPA（Robotic Process Automation）事情 日本における導入例からみる今後の展開」／【2】ビジネス実務研究 1)ビジネス環境とビジネス実務
4. 千葉 里美（札幌国際大学）、阿部 啓子（札幌国際大学）「外国人留学生のインターンシッププログラム基盤整備にむけた基礎研究-ヒアリング調査を中心に-」／【2】ビジネス実務研究 3)教育方法の研究

■関東・東北ブロック

1. 研究発表
大島 武（東京工芸大学）「技術革新の伴うビジネス環境の変化に関する考察 -AI技術を中心に-」／【2】ビジネス実務研究 1)ビジネス実務環境とビジネス実務
2. 実践事例報告
安齋 徹（目白大学）「地方の未来に大学ができること ～まち・ひと・しごと・女性・未来という5つの視座～」／【1】ビジネス実務教育 1)カリキュラム検討

■近畿ブロック

1. 大田 住吉、水野 武（摂南大学）「市民大学への学生PBL参加の教育的効用と課題」（ブロック助成研究最終報告）／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究
2. 樋口 勝一（追手門学院大学）、荻野 正美（プール学院短期大学）、兒島 尚子（大阪樟蔭女子大学）、福井 就（追手門学園）、仁平 征次（仁平ビジネス実務研究所）「秘書関連資格・検定取得の将来における効果」（ブロック助成研究中間報告）／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究
3. 永川 幸子（四天王寺大学）「インターンシップを活用した中退防止プログラム実施とその効果」／【1】ビジネス実務教育 1)カリキュラム検討
4. 東野 國子（大阪教育大学大学院）「短期大学におけるキャリア教育のスタンダードモデルの検討～キャリア教育関連のシラバス分析を通して」／【1】ビジネス実務教育 1)カリキュラム検討
5. 掛谷 純子、西尾 久美子（京都女子大学）「ビジネス実務教育の実践—京都女子大学のビジネスプログラム導入事例—」／【1】ビジネス実務教育 1)カリキュラム検討

■中部ブロック

1. 野添 雅義（高山自動車短期大学）「大変革期(Wende)における組織の解体と統合について -DDR(ドイツ民主共和国)崩壊期におけるNVA(国家人民軍)-」／【2】ビジネス実務研究 1)ビジネス環境とビジネス実務
2. 河合 晋（岐阜経済大学）・竹内 治彦（岐阜経済大学）・見館 好隆（北九州市立大学）「担い手育成のためのキャリア教育に関する課題」／【2】ビジネス実務研究 2)人材育成と能力開発
3. 山本 優子・坂田 裕介・加藤 憲・服部 しのぶ・米本 倉基（藤田医科大学）「医療通訳における役割期待の委任範囲に関する研究」／【2】ビジネス実務研究 1)ビジネス環境とビジネス実務

■中国・四国ブロック

1. 佐々木 公之（中国学園大学）・大田 住吉（摂南大学）「異業種連携事業で派生した課題と大学教育での効果：真備町の介護施設での事例を通して」／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究
2. 堀口 誠信（徳島文理大学短期大学部）「阿波踊り学生通訳ボランティアと徳島を紹介する英語表現」／【1】ビジネス実務教育 2)ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発
3. 加渡 いづみ（四国大学短期大学部）「地域課題を題材とした地域教育の方向性：地域連携による観光活性化の取り組み」／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究
4. 名和 晋也（岡山県立津山商業高等学校）「商業高校におけるアクティブラーニング手法導入後のキャリア教育」／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

■九州・沖縄ブロック

1. 江藤 智佐子（久留米大学）「非資格系分野における専門と関連した職業統合的学習（WIL）」／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究
2. 石橋 慶一・藤井 厚紀（福岡工業大学短期大学部）「自己選択型習熟度別クラス編成を導入した授業の運営に関する一考察」／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究
3. 村江 史年（北九州市立大学）「ボランティア活動が大学・専門学生に防災意識をもたらす可能性」／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究
4. 見館 好隆（北九州市立大学）「異文化理解力をもたらす海外インターンシップの可能性」／【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

ブロック研究会運営委員一覧

◎はブロックリーダー、○はサブリーダー

■北海道ブロック

- ◎加藤 由紀子 (北海商科大学)
- 千葉 里美 (札幌国際大学)
- 和田 早代 (札幌国際大学)
- 高橋 秀幸 (北海道武蔵女子短期大学)
- 官尾 昌子 (北海道武蔵女子短期大学)
- 森谷 一経 (北海道文教大学)
- 田澤 早苗 (株式会社 ニトリ)
- 南 聡子 (国際カラーデザイン協会)

■関東・東北ブロック

- ◎宮田 篤 (青森中央短期大学)
- 安齋 徹 (目白大学)
- 齋藤 裕美 (多摩大学)
- 澤田 裕美 (大妻女子大学)
- 大島 武 (東京工芸大学)
- 大塚 映 (東京経営短期大学)
- 上岡 史郎 (目白大学短期大学部)
- 木村 信綱 (福島学院大学短期大学部)
- 金 世煥 (いわき明星大学)
- 小松 由美 (福島学院大学)
- 周藤 亜矢子 (常磐大学)
- 坪井 明彦 (高崎経済大学)
- 長谷川 美千留 (八戸学院大学)

■中部ブロック

- ◎手嶋 慎介 (愛知東邦大学)
- 加納 輝尚 (富山短期大学)
- 河合 晋 (岐阜経済大学)
- 西川 三恵子 (九州共立大学)
- 若月 博延 (金城大学短期大学部)
- 奥村 実樹 (金沢星稷大学)
- 岡野 大輔 (金城大学)
- 中川 雅人 (中部学院大学)

■近畿ブロック

- ◎坂本 理郎 (大手前大学)
- 樋口 勝一 (追手門学院大学)
- 掛谷 純子 (京都女子大学)
- 加藤 晴美 (プール学院短期大学)
- 高松 直紀 (大阪樟蔭女子大学)
- 西尾 久美子 (京都女子大学)
- 仁平 直 (神戸国際大学附属高等学校)
- 野坂 純子 (大手前短期大学)
- 福井 愛美 (神戸女子短期大学)
- 福井 就 (大手前短期大学)
- 水野 武 (摂南大学)

■中国・四国ブロック

- ◎佃 昌道 (高松短期大学)
- 金岡 敬子 (四天王寺大学)
- 松永 満佐子 (四国大学短期大学部)
- 堀口 誠信 (徳島文理大学短期大学部)
- 立花 智香 (安田女子短期大学)
- 水口 文吾 (高松短期大学)

■九州・沖縄ブロック

- ◎見館 好隆 (北九州市立大学)
- 江藤 智佐子 (久留米大学)
- 藤村 やよい (久留米信愛女学院短期大学)
- 井上 奈美子 (福岡県立大学)
- 天野 緑郎 (M&C フューチャーコンサルティング)
- 石橋 慶一 (福岡工業大学短期大学部)
- 大重 康雄 (鹿児島女子短期大学)
- 有馬 恵子 (鹿児島女子短期大学)



事務局からのお知らせ

■ビジネス実務論集 No. 38 について

2020年3月発行予定のビジネス実務論集 No. 38 の投稿募集は以下のスケジュールで予定されています。みなさまの投稿をお待ちしております。投稿申込期限を過ぎますと受付できませんのでご注意ください。ご質問等は、学会事務局までメールでお問い合わせください。

- ▶2019年7月上旬 学会HPにて投稿募集のお知らせ
- ▶2019年8月上旬 投稿申し込み締切

■転居および所属先変更等ご連絡のお願い

当学会から発行物等をお送りする際には、宅配業者を利用することがあります。郵便局に転居届をご提出いただいても、転居先不明等で学会事務局に返送されてくる場合があります。会員のみなさまに発行物をスムーズにお届けするためにも、転居や所属先変更の際には学会事務局あてにご一報くださいますようお願いいたします。なお、年会費の請求書は全国大会・総会後にお送りいたしますので、よろしくをお願いいたします。

《新入会員紹介》 (2018年7月～2019年2月入会)

◆正会員 (敬称略)

氏名	所属	ブロック
横山 克人	札幌国際大学	北海道
川瀬 真弓	岐阜大学	中部
村田 幸則	藤田医科大学	中部
森部 絢嗣	岐阜大学	中部
山本 優子	藤田医科大学大学院	中部
小原 寿美	広島文教女子大学	中国・四国

◆学生会員

氏名	所属	ブロック
趙 牧耘	事業創造大学院大学	中部

第38回(2019年度) 全国大会のご案内

- 担当ブロック：関東・東北
- 統一テーマ：
AI時代とビジネス実務教育
- 開催日：
2019年6月1日(土)・2日(日)
- 会場：目白大学短期大学部(東京)
- 基調講演
「AIの進展とビジネス実務の変化」
保科 学世 氏(アクセンチュア株式会社)



<http://isi2016.meirom.net/>

日本ビジネス実務学会会報 No. 70

発行日：2019(平成31)年3月31日

編集：日本ビジネス実務学会 広報委員会

(和田 佳子・高橋 眞知子・加藤 由紀子・堀口 誠信・樋口 勝一・見舘 好隆)

連絡先：日本ビジネス実務学会事務局(札幌国際大学内) Mail:business.jitumu@gmail.com

JSABs
Japan Society of Applied Business Studies